

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

会津坂下町長 古川庄平

市町村名 (市町村コード)	会津坂下町 (07421)
地域名 (地域内農業集落名)	川西地区 (宇内集落)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和8年2月19日 (第1回)

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

- ・法人への集積が進んでいる。
- ・周辺の水路の川底が高く、水が抜けにくいことにより、内水氾濫が起こる可能性がある。
- ・水路の老朽化が進んでおり、修繕が必要となっている。
- ・将来的に農地を手放す人も出てくると考えられる。その際に農地の認識の違いによるトラブルが危惧される。
- ・集積された農地について、移動することよりも、水が原因で手間が増えることが多い。

(2) 地域における農業の将来の在り方

- ・水路ごとに農地を集約・集積することが出来れば、作業の効率化やコスト削減につながる。
- ・現状専業で営農している方を地域の担い手として、集約・集積を進めていく。
- ・農地中間管理機構を通して農地の賃貸借を行う際も、将来トラブルにつながるということがないよう双方が納得できるルールを作成する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	99.77 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	99.77 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方

農振農用地区域内の農地を農業上の利用が行われる区域とし、その区域と住宅地又は林地との間にある農地は保全・管理を行う区域とする。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
担い手を中心に集積・集約化を進めるため、集落と担い手で協議しながら、団地面積の拡大を農地中間管理機構を通して進めていく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
離農した方の農地については、担い手の経営意向などを考慮しながら、段階的に集約化していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
大規模な基盤整備は現実的ではないことから、農地の集約、団地化を進めながら小区画田を大区画田にするため、できるだけ負担金が少なく済むように補助事業を活用しながら土地改良事業の活用を検討する。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
周辺集落の担い手と協議しながら農地の維持・管理を継続していくとともに、可能な限り自作地の維持・保全にも努める。また、他地区の農業者との意見交換や情報交換を積極的に行うことで、周辺地区や関係機関と連携して安定した経営基盤を確立していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
防除作業や追肥など、将来的に地域内の担い手が所有している機械で対応出来るような作業については、作業委託を検討する。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

③防除や追肥、直播などについて情報収集を心がけ、スマート農業を取り入れることで、作業の省力化・農地の規模拡大を目指す。  
 ⑦多面的機能支払交付金事業の活動を実施し、自作農家・委託農家・集落住民が協力して農地保全等の取組を維持・発展させていく。